令和３年７月期月次景況調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進み、行政の需要喚起策の実施もあり、小売業やサービス業等は市況の動向に回復の兆しが見られた一方、木材・木製品や自動車関連等の製造業及び建設業等においては、原材料不足や資材価格高騰等の影響を受けており、全体としては、景況 DI 値は低い水準で停滞している。

長引くコロナ禍により、旅行業や旅客運送業などでは、持ちこたえられず廃業したとの報告もあるなど、新型コロナウイルスの影響を受けている業種においては、コロナ前の水準には戻らない厳しい状況が続いている。

新型コロナウイルスの感染者は再度増加に転じており、また、コロナの影響の少ない業種においても原材料高、部品の調達不安等を抱え、多くの業種において、先行きを不安視する声が多い。

山口県の主要指標 DI 値（令和３年７月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」･「好転」したとする企業割合から「減少」･「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況　　（＜好転＞ − ＜悪化＞ ＝ ＜DI 値＞）

前年同月比は、**好転：** 1.3%　**悪化：**48.8%　**DI 値：** **▲47.5%** ポイント

売上高　　（＜増加＞ − ＜減少＞ ＝ ＜DI 値＞）

前年同月比は、**増加：**15.0%　**減少：**40.0%　**DI 値：** **▲25.0%** ポイント

収益状況　　（＜好転＞ − ＜悪化＞ ＝ ＜DI 値＞）

前年同月比は、**好転：** 6.3%　**悪化：**42.5%　**DI 値：** **▲36.2%** ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（令和３年７月末現在）

30 以上	30 未満～10 以上	10 未満～▲10 以上	▲10 未満～▲30 以上	▲30 未満

食料品	繊維工業	木材・木製品	印刷	窯業・土石製品	一般機器	輸送機器	全製造業
▲75.0	▲50.0	▲66.7	▲50.0	▲50.0	▲22.2	0.0	▲46.9

卸売業	小売業	商店街	サービス業	建設業	運輸業	その他	全非製造業
▲40.0	▲50.0	▲80.0	▲54.5	▲36.4	▲42.9	0.0	▲47.9

全体
▲47.5

特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	新型コロナウイルスの影響がまだまだ続いていることに加え、砂糖などの値上げが続き、厳しい状況が続いている。	調味料製造業
	依然として売上や消費が回復していない。そのような中、最低賃金上昇の動きに恐怖を感じている。大型店のシャトレーゼが脅威である。	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	令和２年７月は新型コロナウイルスの影響で夏休みが減り、給食の実施日が増えたが、本年は通常の状態に戻ったため、令和２年７月に比べ売上が約 30%減少した。	パン・菓子製造業 下関市
	水産加工品の原材料となるイワシやアジ類の水揚げが少なく、困っている。新型コロナ感染者の増加により旅行者が激減し、土産品の販売が大幅に落ち込んでいる。ワクチン接種がカギとなるが、前進しない理由が、ワクチンの入荷が少ないためというのは、理解しがたい。	水産食料品製造業 長門市
	７月に入っても新型コロナウイルスの影響は改善せず、業況は悪化。今後のビジョンが描けない。また、原料不足・原料高騰の懸念材料は払拭できない。感染者が増加傾向にあることが、売上に響きそう。	水産食料品製造業 下関市
	７月は、東京五輪が無観客ではあったが開催されるなど、明るい兆しも見えてきたが、新型コロナウイルスの蔓延に伴う緊急事態宣言は続いており、山口県内の各種イベントも中止されるものが多かった。飲食店の時短要請や種類の販売禁止などにより、関連食材の売上も激減し、特に山口県の日本酒メーカーの売上減少が酒米の買い控えというところにつながっており、影響が多岐に広がっている。併せて、業務用の米余り等による価格下落への対応も必要となる。台風が多数確認されるなど今年も異常気象が続いており、脱炭素社会への実現に向け、火力発電の比率を、将来的には０にするぐらいの改革も必要と思う。	精穀・製粉業
繊維工業	外国人技能実習生の異動は無い。ベトナムでは、新型コロナウイルスの影響で７月１９日から外出禁止となり、実習生との面接も行われない状況である。中国の南京でも感染が拡大しており、両国とも依然、実習生確保が難しい状況が続いている。	下着類製造業
	令和２年と変わらない状況である。	外衣・シャツ製造業

木材・木製品	木材全般が高騰する状況の中、それに関連するのか、住宅関係資材全般の価格が上昇している。この状況がいつ改善されるのか判らないが、価格の安定が求められる。売上の状況は、７月については、多少、計上できる見通しである。	製材業・木製品製造業 岩国市
	売上額はコロナ前の前々年同月比で 15%の減少。コロナ禍の前年同月比で 5%の減少。製材業全組合員７社のうち２社が売上増加および収益好転、他組合員については売上、収益ともに依然として回復の兆しも見えない厳しい状況が続いている。「ウッドショック」の状況が続く中、国産木材の需要は益々高まり原材料となる丸太原木の価格についても、今年４月期以降著しい上昇が続いており、今月までの約４ヶ月間で約 1.4～2 倍程度まで高騰している。製材品等の販売価格についても前述の状況により約 20～30%の高騰の状況。また、製品の仕入調達については、ＫＤ材（人工乾燥材）が入手しにくい状況である。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	東京では４度目となる緊急事態宣言が発出されたが、全国的にはワクチン接種率の上昇に伴い国民のコロナに対する意識が薄くなりつつあるのか、人出が増加傾向にある。オリンピックも原則無観客開催が決まったが、そこまでして開催することで逆にオリンピックの開催意義が問われる結果となった。印刷業界が 1 年のうち最も閑散期を迎える夏場となり厳しい状況が続いているが、印刷組合の上層団体においても現在、各業界で言われている「ＤＸ」の具体的プログラムを策定しており、従来の常識を打ち破る効率化、合理化を図ることで生き残る方向を模索している状況である。	印刷 下関市
	依然仕事は少なく、工場は動いてない。雇用調整もそろそろ終わるらしく、９月以降がますます厳しくなりそうである。	印刷 山口市
窯業・ 土石製品	出荷量は、 (令和２年７月)骨材 88%、路盤材 63%、再生材 70% ↓ (令和３年７月)骨材 112%、路盤材 87%、再生材 134% ここ数ヶ月、工事数がかなり減少している。	砕石製造業
	出荷量は、前月比 117%、前年同月比 103%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は安定している。	生コンクリート製造業 山口市
	当組合では、順調に受注が出来ている。ワクチン接種が進んでいることの安堵感から、本年はお墓参りをされる方が増えると見込まれるので、お墓に関する依頼も、昨年よりは増えると思う。	石工品製造業

	７月の売上高は、小売では前年比約 200%、卸は前年比約 150%となっており、大きく売上アップとなった。とくに小売に関しては、７月２２日～２５日の４連休は多くの観光客に来ていただき、売上アップに貢献した。	陶磁器・同関連製品製造業
一般機器	新型コロナウイルスの影響で、外国人技能実習生の面接が出来ず､引き続きリモート面接を実施しているが、ベトナムでも感染拡大のロックダウンの状況で、募集も困難で、面接も延期になっている。	一般機械器具製造業 岩国市
	７月は、組合内の同業種の中でも、仕事量が多いところと、少ないところの差が大きくでているようで、組合員間で仕事を分け合う等、助け合いながら乗り切っている模様。８月以降は例年より落ち込む予測をしている企業様が多く、新型コロナウイルスの影響が出ているように感じる。	一般機械器具製造業 下松市
	山口県の新型コロナウイルス感染者が７月の４連休でまた増加傾向にある。主要都市に緊急事態宣言が発出されたが、経済活動がこれ以上鈍化しないよう祈るばかりである。中国と取引のある組合員は、中国の自然災害もあり受注が中断している。自動車関連の組合員は、６月以降、半導体の入手難で生産が滞り影響が続いている。９月以降の景気の上昇気流に期待を寄せている。	一般機械器具製造業 防府市
	新型コロナウイルスの蔓延による企業業績への影響はほぼ無いが、自動車整備企業の倒産が発生。３号の外国人技能実習生が１名いるが、他企業で特定技能に移行することで調整中。それ以外では、むしろ外国人の入国が出来なく人手不足から残業が増加するとともに事業継続に支障が出てきており、入国制限の早期解除が望まれるところである。さらに、企業からは特定技能の労働者の紹介を依頼されることが増えてきたにも関わらず、逆に技能実習生から特定技能への切り替えにより都市部の企業への転籍が増え、また帰国するケースも増えてきている。そのため、各企業とも人員の確保に苦慮している。	一般機械器具製造業 宇部市
	大きな変化は見られないが、ワクチン接種の加速に伴い、堅調な動きが感じられる。	
輸送機器	社内の感染防止と、本人・家族・取引先等感染した場合の対策等、業務外のことでエネルギーを費やす。早期のワクチン接種と新型コロナウイルスの終息を願う。鉄道車両関係の受注は新車両も計画されており生産の予定はあるが、世界的なコロナ禍の状況で、減少することも見込まれる。半導体は当初の予定よりも多少受注が減少していたが、上期後半から下期にかけて	鉄道車両・ 同部品製造業

	最大規模の作業量が見込まれる。	
卸売業	ここ数ヶ月、倉庫売上の減少傾向が続いているが、肉や海産物（カキ）は少しずつではあるものの増加に転じ始めた。令和２年に比べ落ち込んではいるが、令和元年と比べるとその落ち込みは微少である。	乾物卸売業
	養殖魚の価格が上昇している。	生鮮・魚介卸売業
	コロナ禍、依然として売上が伸び悩み、収益に影響している。	各種商品卸売業
小売業	梅雨も明け紫外線が強くなり、日焼け止めやメーク落としがよく出るようになってきた。組合員店舗の収益は前年同等か微減の模様。インショップなどはディベロッパーの販促（抽選会や現金バックなど）等で売り上げを維持しているようである。最近は、各店舗ともインスタグラムやラインニュース等 SNS をよく活用しているので、全粧協本部から最新情報が届くため、より早く情報や企画などを得ることができる「粧サポLINE ナビゲーション」を組合員各店登録するようにお願いしている。	化粧品小売業
	前年産米の不作に伴う顧客農家の生産意欲の減退、一向に収まる気配のない新型コロナウイルスの影響による大展示会の中止等により、顧客の購買意欲が、ますます減退している。我々の業界は、顧客層が高齢者中心のため、ワクチン接種も進んできたにもかかわらず、売上が上がらない。結局のところ、すべての年齢層でワクチン接種が終わらないと様々なイベントの開催も難しいと思われる。	農業用機械器具小売業
	気温も上がり、エアコン・冷蔵庫の動きが良かった。それでも売上は、コロナ禍（令和２年７月）の 95%位である。	機械器具小売業
	前年同月比では約 103%増となり、前年同月と同じ水準だが、前々年同月比では約 55%の売上。商工会議所主催の夏まつりが７／２２～２４の間に行われたが、駐車台数の増加にはつながらなかった。貸しホールは、会議室の利用申込みはあるが、大ホールを利用する申込みは少ない状況である。	各種商品小売業 周南市
	７／２５時点の店舗売上は、前年同月比でプラス 28%と好調に推移。特に 7/22～25 の４連休は連日盛況で、コロナ前の７月の実績をクリアできそうな見込み。恒例の「萩・瀬付きアジ祭り」は今年度も中止となったが、萩市・漁協と協働で、オンラインショップを活用した「萩の瀬付きアジキャンペーン」を実施。	各種商品小売業 萩市
	７月の売上は前年比 98.5%、来店者数 94.4%。先月に引き続き下関市の地域振興券のおかげで、前年売上を超える日が増えているが、下関市地域振興券の使用期	各種商品小売業 下関市

	限が迫っている。	
商店街	ワクチン接種も進み、オリンピックの開催もあり、市況の動向にやや変化の兆しが見られる。飲食店の売上の回復が始まったが、物販店へ及ぶには程遠い。新型コロナウイルスの感染者数の増加にも慣れ、緊急事態宣言などの制限や制度は､すでに陳腐化しているので、更なる支援施策が必要。	岩国市
	高齢者のワクチン接種も進み、プレミアム商品券も使われ始め、夏休み、お盆に向けての経済の活性化が期待される。	宇部市
	商店街の人の流れがこの２ヶ月で多少増えた模様。店舗間でも入店客が増えた、変わらない等いろいろな声を聞く。飲食店や食材を中心とした店舗では入店客が増加傾向にあるが、新型コロナの影響が続き、必要なものしか購入しない等消費者の財布の紐が固い状況が依然として続いている。	萩市
	来月末で下関市プレミアム商品券の使用期限を迎えるが、商店街にはあまり影響がないように思われる。夏休みに入り、子供の姿は増えたが、買い物に影響があるかどうかは微妙である。	下関市
サービス業	新型コロナウイルスの影響は少しずつなくなっているように思われるが、厳しい暑さが続いているため、来店サイクルが長くなっている。	理容業
	昨年の道路運送車両法改正により、自動車のフロントガラスで先進安全装置のカメラが付いたものの交換など、自動車整備事業の認証が新たに必要となった。このことから、これまで自動車ガラス事業者は認証がなくても作業が出来ていたものが出来なくなることで、これらの事業者が認証取得に向け動き出している。既に、認証を取得したところもあるが、ほとんどは整備士の確保や新たな設備投資など厳しい環境に置かれている。当組合としては、新規参入ということで、できる限りの支援を行うこととしている。	自動車整備業
	新型コロナウイルスで大変な状況。オリンピックの効果に少し期待をしている。	スポーツ・健康教授業
	７月もなんとか前年同月の売上を上回ることが出来たが、コロナ前には戻っていない。組合内でも､｢完全にコロナ前に戻ることはない｣という考えが普通になってきている。理由は、コロナの影響で仕事や出張などのリモート化が進み、ますますスーツなど本来クリーニングに出てくるであろうアイテムの需要が激減したことが主な原因として挙げられる。今後はクリーニングの仕事だけで生き残るのは厳しそうである。	普通洗濯業

	居酒屋店などはお客も多くなってきた模様。連日の東京の感染者数増加にどう反応するか、注意深く慎重に世の中の動向をみていきたい。	飲食業
	令和２年７月の７５％、令和元年７月の１３％の売上である。またもや１社、事業廃止。	旅行業
	令和２年７月と比べ、売上 120.1%、宿泊人員 136.8%となったが、コロナウイルス感染の影響のなかった令和元年７月と比べると、売上 70.4%、宿泊人員 71.7%と非常に厳しい状況が続いている。客単価については、山口市や組合としてもプレミアム宿泊券等を発行し、ＧｏＴｏトラベルも 7/21 に開始され、高額施設に予約が殺到する等で大きくアップしたが、今年についてはそれらの対策が無いため、前年比 88.1%とダウンしている。旅館業としては、コロナ禍の令和２年との比較はナンセンスである。	旅館業 山口市
	令和２年７月のあまりにも悪い状況に比べると 7 割増加、令和元年７月と比べると、まだまだ５割程度しか回復していない。オリンピック期間の４連休には多少のお客があったが、平日は厳しい状況であった。８月にはいろいろな補助事業がスタートするが、まだ予約は少なく不安な材料ばかりである。	旅館業 下関市
	コロナ感染症の影響が拡大。入浴者数は減少傾向が続く。スポーツ施設の利用は昨年よりは増加傾向。しかし、ブラジルラグビー選手の合宿により施設利用は月末からとなった。コロナと猛暑と少雨で厳しい状況が続いており、観光客の伸びは期待薄で、先が見えない中での営業が続く。	旅館業 長門市
建設業	中電への工事申請 150 件(当支部 128 件)、前年同月 127 件(同 104 件)。太陽光発電への申請 39 件(前年 28 件)、オール電化申請 63 件（前年 54 件)。LED 街路灯への切り替え・新設申請 27 件(前年 35 件)であった。	電気工事業
	手持の工事量がこの７年～８年で最少となり、今後の工事量は更に減少すると予測される。それに伴い業界規模の縮小は一段と進む。	左官業
	順調に発注もあり忙しくしているところに、伊予灘を震源とする地震が、７/８（震度１）と７/１７（震度３）と続けてあり、水道管の修理が今現在も続き、人手不足もあって大変忙しい。	管工事業
	組合青年部の総会を開催した。県事業の発注は例年と変わらないとの情報。農林事務所の発注は、増えている。市内の一般情報としては、再建途中であった柳井クルーズホテルの経営母体が変更となり、上関の船舶会社に譲渡された。コロナ禍の影響もあったと思われるが、コロナ禍の影響以前から銀行管理となっていた	土木工事業 柳井市

	ものが、遂に経営譲渡となった。一方で、来秋、稼働となる「日鉄ドラム」の建設工事が進んでいる。	
	７月の受注高は、対前年同月比 39.8%。今年度の累計では、対前年比 71.0%。	土木工事業 萩市
	土木工事については、ほぼ前年並みで推移している。	土木工事業 長門市
	７月後半からの酷暑で、屋根工事業界は大変仕事の遣りにくい時期を迎えた。熱中症の対応を最優先で現場の仕事を進めているので、利潤追求には程遠いのが現状。仕入商品、中でも釘、銅線、板金部材の値上げが追い討ちをかけている。	瓦工事業
	若干見積が増えてきたが、材料価格の上昇や手配難に不安を感じている。	鉄骨・鉄筋工事業
運輸業	輸送関係は新型コロナウイルスの影響で、底辺の状況にある輸送量に苦慮している。総体的には前月比 0.5%強の増加。輸出は 0.7%弱の増加。国内向けの荷動きは横ばいで推移。燃料は１円の値上げ。運送費は据え置き、燃料価格の上昇のアンバランスに中小零細運送業にとって厳しい状況が続いている。せめて軽油引取税の減額を切望する。	一般貨物自動車運送業 下松市
	輸送取扱高については前年並みの見通し。上向きつつあった稼働も半導体等の供給不足により、自動車関連においては見通しの立たない状態が続いている。燃料費は前年比 33%程度上昇。	一般貨物自動車運送業 防府市
	運送関係は、海外向けの製品・資材の動きが好調のようである。関東向け等比較的長距離の荷動きも増えてきている。一方で雑貨品等、国内の輸送は全体として動きは鈍い。若干の人員不足があり、採用を続けている。	一般貨物自動車運送業 宇部市

	タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比▲8.6%（令和３年６月１日～令和３年７月２０日分）。６月１日～３０日分は▲4.5%、7月１日～２０日分は▲14.4%。前年度分がコロナで大幅に落ち込んだため（前年６月分は▲54.4%）、前々年度比では、それぞれ▲54.5%，▲54.5%，▲59.7%で、半分以下の状態である。当組合の取扱いタクシー事業者は、光市，下松市，周南市，防府市の地域。６月分については、周南▲8.2%，下松▲25.1%，光▲7.0%，防府市地区が▲8.4%で、組合員の全域では▲9.2%、地区外（員外）＋40.6%、合計▲4.5%(▲464 千円)。主要燃料であるＬＰＧについては、ＣＰ（通告価格）と為替に連動して変動する。ＣＰが上がり（前月 500.0$/トンが今月 572.5$/トン、前年 335.0$/トン)、輸送用バンカーＣ重油も上がり（前月 561.0$/トンが今月 593.0$/トン、前年 350.0$/トン)。為替は円安（前月 110.20 円／＄が 111.13 円／＄)。燃料単価は＋7.0%と上昇、前年７月が低かった事もあり、前年比＋24.6%となり、収入が落ちている中たいへん厳しい状況。タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって慢性的に不足しているが、需要が落ちているため、採用側も慎重になっており、車両の稼働率は低下する一方である。５月末日で、老舗の組合員１社が廃業。昨年７月末にチケットセンターも廃業しており、長引くコロナの影響で､旅客運送事業は壊滅的な不況が続いている。	一般旅客自動車運送業
	令和２年７月には、新取扱貨物もあったが、それを考慮しても、令和３年７月の取扱貨物は、対前年比で若干増加している。しかし、総合的に判断すると、前年度と変わらない状況である。	港湾運送業 小野田市
その他	新型コロナウイルスの感染者が加速して多くなり、先行きが見込めなくなっている。組合員からの外国人技能実習生入国時期の問い合わせは、報道による情報で理解が浸透しており少なくなっている。事情を把握した上での問い合わせが数件あったが、クレーム等は一切ない。このように入国日が確定しない状況の中ではあるが、実習予定等の契約は伸びつつある。	介護事業